

## [別紙②]

### (1) 授業の流れ

#### ① これまでの学習を想起する。

##### < 体の変化 >

- ・ 女の子より男の子の方が成長が遅い。
- ・ 女の子は丸みが出てくる。
- ・ 男の子はかっちりしてくる。
- ・ 女の子には初経、男の子には精通がある。
- ・ 男の子は声変わりする。

##### < 心の変化 >

- ・ 異性を好きになる。
- ・ 意識している人にちょっかいをかける。

#### 前時の学習内容を発表する



#### 話を聞く

#### ② 性についての悩みについて知る。

##### < からだの性とこころの性が違う >

##### ゲストティーチャーの話

- ・ からだの性は体のつくり。女性は胸が大きくなる、卵巣がある。男性はがっちりしてくる、おちんちんがある。からだの性は目に見える。
- ・ こころの性は目に見えない。男性の体で生まれたけれど女性の心をもっている人がいる。女性の体で生まれたけれど男性の心をもっている人がいる。どちらでもないという人もいる。



#### 個人で考える

##### < 異性に興味がもてない >

##### ゲストティーチャーの話

- ・ 好きになる性は誰を好きになるかということ。男の人だったら女の子を好きになるのが当たり前だと思っているかもしれない。でも、同性を好きになる人もいるし、誰も好きにならない人もいる。また両方好きという人もいる。一人ひとり違うということ。教科書も少しずつ変わってきている。自分が好きになった人を好きになったらいい。好きにならなかつたらそれでもいい。



#### 班で話し合う

#### ③ どんなことで悩んでいるか考える。

個人で考える → 班で話し合う → 短冊に書いて黒板に貼る

##### < からだの性とこころの性が違う >

- ・ 男子と遊んでいるけど、本当は女子と一緒に遊びたい。
- ・ 髪の毛を長くしたい。
- ・ どちらのトイレに入ればいいのか。
- ・ 水泳の時、着替えに困る。



#### 短冊を貼る

##### < 異性に興味がもてない >

- ・ 同性が好きになってしまう、変なのかな？
- ・ 周りの友だちは「好きな人ができた」と言っているけど、誰も好きになれない。

##### ゲストティーチャーの話

- ・ ヒントを言っていなかったから難しかったと思います。一生懸命みんなが考えてくれたことが大切です。世の中には、「男はこうだ。女はこうだ。」と思っている人がいる。髪型や色とか、見た目ですら判断されたり、みんなが考えてくれた、着がえをする場所、トイレ、お風呂などでも困ったりしている人もいます。
- ・ 同性を好きになる人もいます。男の人どうして手をつないで歩いていたら偏見で見られることもある。今の日本では同性どうしの結婚は法律上できない。
- ・ 考えることが難しいからと、それで終わるのではなくて、悩んでいる人がいるということ、4年生のみんなが知ってくれたら、悩んでいる人も救われるから、忘れずに覚えておいてほしい。



⑤ 今日の学習をふり返る。

児童のふり返り

- ・お話を聞いて、こころの性とからだの性が一致していなくて悩んでいる人がいることが分かりました。悩んでいる人がいたら、話を聞いてあげたいなと思いました。
- ・男子どうし、女子どうしで手をつないでも、仲良しなだけだと思っていたら「変」「気持ち悪い」など思う人がいることにびっくりしました。でも私たちがいろんな人に伝えて、楽に生きられる人が増えてほしいです。偏見で、髪の毛が長い人が男子トイレに入ったとからかうように言ったらだめだと思います。一人一回の人生だから、不安になって生きにくいと思っている人がいなくなるようにしたいです。
- ・そんなにからだの性とこころの性のことを考えてこなかったけれど、今回の授業でよく考えて、そのことについてよく分かりました。
- ・「からだの性とこころの性の違い」のことがよく分かりました。「異性に関心がもてない」の方は難しかったけど、説明を聞いてよく分かったのでよかったです。同じ性を好きになってもいいことが分かりました。からだの性とこころの性のことで、悩む人もいることを初めて知りました。
- ・最初は何を書くか分からなかったけど、どんどん考えて、人はいろいろ違うし、女性だから…、男性だから…、とかじゃなくて自分のままでいられるのがいいと思います。自分の人生だから「暗い」じゃなくて、「楽しく明るい」のが誰だっていいと思います。「だいじょうぶだよ」とか、ちゃんと声かけができると、その人たちは生きやすくなると思いました。心の扉を開けることが大切だと思いました。

ワークシート

4年 国語 名前 ( )

性によるちがいは(ヒント…性別の役割型を使って今まで学習してきたこと)

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

⑲

⑳

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

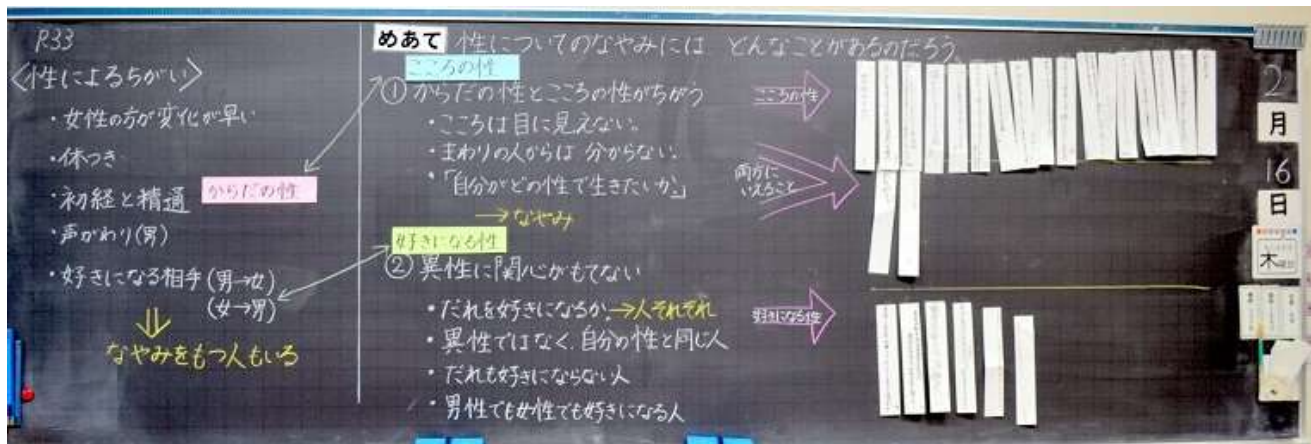
㊽

㊾

㊿

ふり返り(今日の授業で分かったこと → そこから考えたこと)

(2) 板書



(3) 授業を終えて

本時まで、児童は思春期の体と心の変化について学習してきた。ここではこころの性とからだの性について初めて知ることとなる授業なので、「知る」と、「悩みについて真剣に考える」ことを大切にしたい。まず、ゲストティーチャーの話により、こころの性とからだの性が違うということや、異性に関心がないということがどういうことかを教えていただいた。悩みについて個人で考える場面では、真剣に考える姿があった。個人思考の時間には書ける児童は少なかったが、班活動にうつりゲストティーチャーが各班にアドバイスをされると、実際の生活を想像しながら次々に困ることを挙げて短冊に書いていくことができた。個人思考の場面では、性の悩みについて真剣に向き合うことが目的だったので、書けないことは予想通りであった。向き合うことで、性に悩んでいる児童がこの中にいたら、自分の悩みをクラスの子が真剣に考えているんだということを感じることができるのではないかと考えた。

班活動をした際に、「男どうし、手をつないだらおかしい？気持ち悪いって人がいるなんてひどい。」「トイレは多目的がある。」「お風呂は男女関係なく入れるところもある。」と、こちらが想定している以上にかからだの性別での固定概念がないように感じた。本校の児童は、小さい頃から性の多様性について考える場面が多いことから、そのような意識が高いと思う。しかし、社会に出た時にそうはいかない場面に出会うかもしれない。その時には、まわりの人が自分らしく過ごせるようにと、自信をもってより正しく判断できるように次の学年の授業へつなぎ、積み重ねていきたい。